

「野球のことなら私にお任せください！ 野球愛が止まりません！」。あふれんばかりの笑みで元気に話してくれる美保さんはプロ野球・ソフトバンクホークスが大好き。すべての選手の似顔絵をノートに書きためて、うれしそうに説明してくれます。昨年、福岡市内の特別支援学校高等学校を卒業し、今は二つの就労継続支援B型事業所に通いながら名刺作りや受け付けの代行などの仕事を一生懸命こなし、自宅では、その工賃をき

ちんと家計簿につけながら、目標に向けて着実にお金をためています。私の名刺も、自分で描いた子どもたちの絵を添えて作ってくれました。

彼女は1250gの低出生体重児で生まれました。未熟児網膜症で手術となったとき、母は頭が真っ白になり、わらにもする思いで久留米市内の七木地藏に毎日、手を合わせに通いました。その後、脳性まひと診断されてとても落ち込んだものの、しっかりと育てていく覚悟が

の大好きなソフトバンクホークスの開幕戦を見に行った美保さん。すべての選手の解説ができるという



決まったとい  
います。この  
子が歩けるよ  
うに頑張ろう  
と泣いて嫌が  
る美保さんを  
連れて療育施  
設に通いリハ  
ビリを続けま  
した。

## すべてを笑顔に切り替えて

「落ち込むよりは大丈夫、いい方向に向かってきた、と思いたい！」と母。子育てが楽しくてたまらなかったそうです。小さい時にデパートで抱っこしているとお母さん、きついやろ？」と知らない人に声を掛けられ「普通に見えるんだ！」とうれしくなったと振り返ります。

できれば地域の友だちと関わってほしいと、保育所から小学校、中学校まで地域の普通学校に通わせました。おかげで友だちがいつも遊びに来たり、友だちのお母さんが預かってくれたり、花火大会やクリスマスに誘われたりして楽しみました。小学校からパソコン教室にも通い、中学では「車いすの目線から」と題して先生と作文を共同作成し、生きていく自信になったと言います。毎日の中で美保さん目線で感じる事が描かれ、また学校の先生が感じ、驚いたこと、美保さんから学んだことなども添えられています。今でもこの中学では、この作文を使って授業をされるそうです。人と人とのつながり、命の

こうしてお話ができても、肢体不自由や知的障害があると、通える地域の学校や放課後等デイサービスは少ないのが現状です。しかし笑い声を絶やさない家族や、本人の力を最大限に伸ばそうとされた学校の先生、周りの友だちやその家族も「普通に接することで、美保さんは本当に輝いています。地域の学校で友だちと関わる中で傷ついた、つらいと感じたりしたことはないかと聞くと、美保さんは笑顔ではっきり「ありません」と答えます。

美保さんは来年成人式。母と子ども、すべてをその場でプラスに、笑いに切り替えて前に進む姿には学ぶことはあります。これから先の長い人生も美保さんの目線に寄り添いながら、一緒に考えていきます。

(一般社団法人「バンビノ福祉会」代表理事、福岡県久留米市)